

志教育の 視点	☒ かかわる ・ ☒ もとめる ・ ☐ はたす
------------	--

活動名	館山タイム
教科・領域等	全教科
活動学年等	全学年
ねらい	① 多様性豊かなトピックスに触れ、知的好奇心を高める。（言語力） ② 資料を読み、現代社会の情勢や問題点について認識を深める。（情報分析力） ③ 限られた時間で資料を読み、理解する能力を高める。（思考力）

【実践内容】

〔志教育の視点〕

平成15年度、「学校活性化プロポーザル事業」の一環としてはじまった「館山タイム（朝の読書活動）」も、令和6年度で22年目となる。泉館山夢実現サポートプラン「大志21」の大きな柱（「自分を磨く力・人間力の育成」の一つとして機能し、さらに「大志2030」へとコンセプトを引き継いだ。本校では、この朝の読書活動を「館山タイム」と呼び、大志2030の「館高力」実現と令和6年度の重点目標の一つでもある「読書活動や館山タイムの取り組み等を通じて言語活動の一層の充実を図る」の一助とする。また「志教育」における「かかわる」「もとめる」の視点をもった具体的活動として位置づけ、学年共通で取り組んでいる。

〔実施内容〕

- ①朝8:30～8:40（SHR前の10分間）に行う。週番が職員室前のクラスボックスから青封筒に入った資料をクラス全員に配付する。
- ②原則として、毎週月曜日は「小テストの日」とし、国語・英語・数学の小テストを実施する。また、火曜日については「資料提供」を基本とするが、各学年の裁量時間にもあて、柔軟に対応する。
- ③上記②以外の日には「先生方の手作り資料」を読む時間とする。生徒はこの手作り資料を読んだ上で、裏面の「感想、意見」欄にスペースに見合う内容を記述する。
尚、各クラス図書委員は、この「感想、意見」が書かれた用紙を回収し、提出簿にチェックを入れ、昼休みまで、教務部担当教員に提出する。この後資料提供者のチェックを受けて返却となる。
- ④各行事連絡、自由読書、自習（定期考査前）などの時間も設ける。

〔その他〕

- ①資料プリントはファイルに綴じておくように指示する。なお、ファイルは全生徒分学校で用意し、「館山タイム」開始日に配布する。
- ②3年生の「館山タイム」は前期で終了する。（後期は自学自習に充当する）。

志教育の 視点	☒ かかわる ・ ☒ もとめる ・ ☐ はたす
------------	--

活動名	校内ビブリオバトル
教科・領域等	特別活動
活動学年等	第1、2学年
ねらい	① ゲームをとおして書籍への理解と関心を高める。 ② 互いの興味対象を知り他者への尊重の心を涵養し、発表や会話をとおしてコミュニケーション能力を高め、よりよい人間関係を築く力や社会性を養う。

〔実施内容〕

- (1) 「私のお薦めの本」各自1冊を選ぶ。
 1年生：本のジャンルは問わない。教科書・参考書・漫画本は不可とする。
 2年生：「新書」から選ぶ。
- (2) 12月19日（火）～22日（金）の館山タイムで、「私のお薦めの本」の「紹介文」を書く。
- (3) 日時（予選・クラス決勝）令和5年12月22日（金）
 1校時 ビブリオバトル予選
 図書委員が司会進行 場所：教室
 クラスを1班5～6名になるように班分けをする。
 ① 本を掲げて1人3分で本を紹介する。（各発表の後2分の質問タイム）
 ② すべての発表が終わった後に「どの本が一番読みたくなったか」を基準とした投票を図書委員の指示で班ごとに行う。本人は自分には投票しない。
- (4) 同日2校時目 ビブリオバトルクラス決勝
 図書委員が司会進行 場所：教室 マスク着用厳守
 ① 予選で各班の最多票を獲得した本の紹介者が教卓のところで前回同様1人3分で本を紹介する。
 ② 図書委員は、クラス用タブレットに決勝の動画を記録及び司会進行をする。
 ③ すべての発表が終わった後に「どの本が一番読みたくなったか」を基準とした投票をする。
 ④ 最多票を集めたものを「チャンプ本」とする。
 ☆「チャンプ本」の結果は図書館の広報誌に載せる。
- (5) 各学年のチャンプ本を決定する。
 各クラスのチャンプ本紹介者の紹介動画を観てClassiで投票を行い、各学年チャンプ本を決定する。
 ☆「チャンプ本」の結果は図書館の広報誌に載せる。

〔アンケート回答内容〕

1年生は国語の授業でビブリオバトルの動機付けをしたので、多くの生徒が興味を持ち、目的を明確にして取り組んでいた。6割以上の生徒がビブリオバトルをやって「良かった」5割の生徒が「ビブリオバトルへの準備は十分できた」と回答している。2年生は初めて「新書しぼり」での開催だった。目的は2年目のマンネリ化を防ぐためと、該当学年は1年生末に新書読みを国語の授業で完了していたので挑戦してもらおうと試してみた。アンケートではビブリオバトルをやって「悪かった」0.2割を上回る4割の生徒が「やって良かった」と回答しているが、新書縛りについては3割の生徒が「悪かった」と回答し、2割半の「良かった」生徒を上回った。こちらの準備不足と認識不足があった。

〔まとめ〕

1年生はとりわけ今回は授業の中に取り入れてたので、ビブリオバトルの目的をしっかりと押さえた行事になった。図書委員と有志による昼放送のデモンストレーションも好評だった。2年生については「新書しぼり」に抵抗があったようだ。生徒の感想の中には、「新書は普段読まないから紹介してもらって良かった」という意見がある一方「真面目に取り組んでいる生徒が可哀想」「全員が真面目に取り組むようにさせるか、代表者を選出しないかにしてほしい」という意見もあった。真面目に準備参加する生徒を損ねないようにしたい。

〔次年度への課題〕

総合的な探究の時間との連携も視野に入れて、マンネリ化しないように実施形態を検討したい。ビブリオバト

ル直前にバタバタと準備するのではなく、1年を通して働きかけをしていきたい。

〔生徒の感想（抜粋）〕

○要約する力や良さを短くまとめて相手に伝える力が身についたと思う。

○お昼の放送でのお手本みたいなのが参考になった。もう少し早くやってほしい。

○新書の書評は新鮮で面白かったです。しかし本来書評の質や面白さを競うものであるはずなのに過剰なパフォーマンス等「面白さ勝負」になっていたところもありました。

○ジャンルごと、キーワードごとに分けてクラスの壁をなくして決勝する。各ジャンルで選ばれた作品を共有するやり方も面白いのではないのでしょうか